

第**136**期  
營業報告書

昭和49年4月1日－昭和49年9月30日



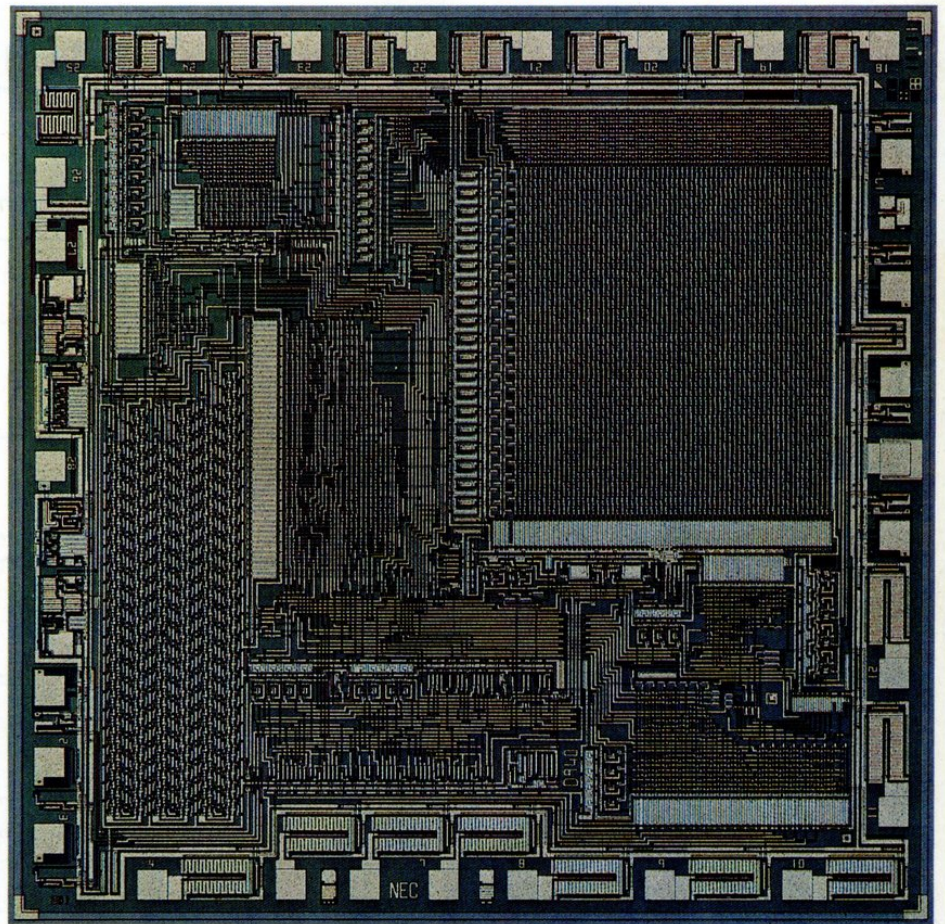
## 電子機器

売上は、汎用コンピュータ「NEACシリーズ2200」、超小型コンピュータ「NEACシステム100」、各種端末装置、郵政省向け郵便自動化装置などが主なものでありますが、全体としては340億円と前期に比べ72億円(17.4%)減少しました。これは主に、設備投資の繰り延べなどの影響によるものであります。

受注については、上記のコンピュータ、電電公社向けの標準形情報処理システム(DIPS)、日本短波放送向けの株価表示装置、機械振興協会向けの大気汚染監視システムなどを主なものとして、400億円と前期に比べ24億円(6.3%)の増加となりました。

なお、当期発表した新世代のコンピュータ「ACOS(エイコス)シリーズ77」NEACシステム200、同300および同400について受注を開始し、各方面の注目を集めました。

5,500個におよぶトランジスタ素子で構成された  
高密度電卓用LSI(原寸の約800倍)



## 電子部品

売上は、各種半導体、ICを中心に312億円と前期に比べ14億円(4.8%)の増加となりました。特に、電卓用LSIや輸出のIC、コンデンサなどが堅調に推移しました。

受注は、家電業界不振の影響を受け309億円と前期に比べ1億円(0.3%)の増加にとどまりました。

## 家庭電器

家庭電器については、国内向けは子会社の新日本電気株が製造販売を行っており、当社は輸出だけを担当していますが、売上、受注とも116億円と前期に比べ37億円(47.0%)の増加となりました。これは、オーストラリア、ヨーロッパ、中近東諸国向けのカラーテレビ、音響機器などが堅調であったためであります。